

岩手県感染症週報

平成30年第23週(6月4日～6月10日)

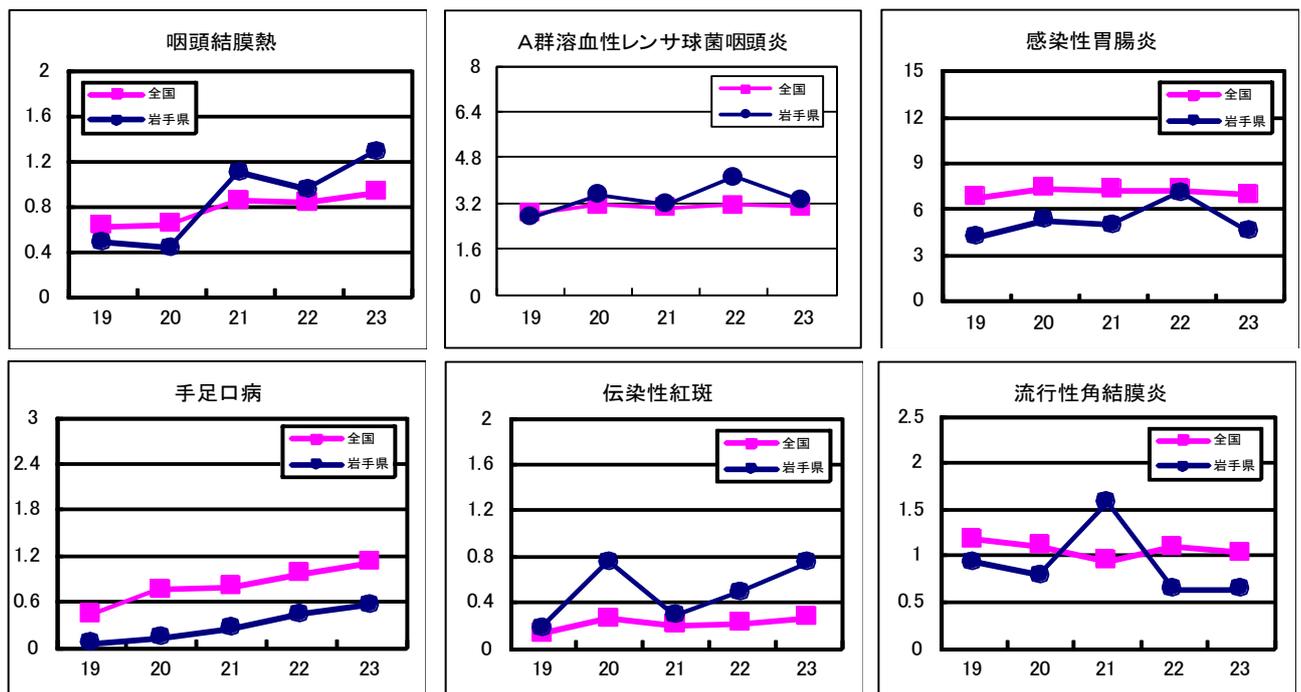
岩手県感染症情報センター

第23週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が6例ありました。そのうち1例は潜在性結核感染症でした。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症の報告が県央地区から1例ありました。患者は20歳代の男性です。
- 4 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・百日咳の報告が奥州地区から1例ありました。患者は60歳代の男性です。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・咽頭結膜熱は、県央地区で警報値(定点当たり患者数3人)を超えました。本疾患は、アデノウイルスによる小児の感染症で、発熱、咽頭炎、結膜の充血などの症状がみられます。くしゃみ等の飛沫や、患者の目や顔に触れた手などを介して感染します。予防には、患者との濃厚接触やタオルの共用を避け、手洗い、うがいを行うことが重要です。
 - ・手足口病は先週よりも増加し、釜石地区で2週続けて警報値(同5人)を超えました。本疾患は、4歳までの幼児を中心として夏季に多くみられ、飛沫や接触のほか、便中に排出されたウイルスからも感染します。予防には、咽頭結膜熱と同様の対策をとりましょう。
 - ・感染性胃腸炎は、盛岡市、県央、中部及び大船渡地区で集団感染事例が報告され、大船渡地区では定点当たり患者数が10人を超えました。予防には、石けんと流水による十分な手洗いと、患者の吐物や便を塩素系薬剤で適切に処理することが重要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。
 ※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		19	20	21	22	23		
インフルエンザ	岩手県	1.77	1.49	0.55	0.08	0.05	→	
	全国	0.42	0.4	0.27	0.19	0.12		
RSウイルス感染症	岩手県	0.28	0.2	0.2	0.28	0.41	→	☆
	全国	0.25	0.3	0.3	0.29	0.3		
咽頭結膜熱	岩手県	0.48	0.43	1.1	0.95	1.28	→	☆☆
	全国	0.62	0.64	0.85	0.83	0.92		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.7	3.48	3.15	4.1	3.31	→	☆☆
	全国	2.85	3.13	3.02	3.12	3.08		
感染性胃腸炎	岩手県	4.2	5.25	4.95	7.08	4.56	↘	☆
	全国	6.74	7.38	7.23	7.26	6.94		
水痘	岩手県	0.2	0.3	0.3	0.33	0.23	→	☆
	全国	0.52	0.35	0.59	0.69	0.51		
手足口病	岩手県	0.05	0.13	0.25	0.44	0.56	→	☆☆
	全国	0.43	0.76	0.79	0.96	1.11		
伝染性紅斑	岩手県	0.18	0.75	0.28	0.49	0.74	↗	☆☆
	全国	0.13	0.26	0.2	0.22	0.27		
突発性発疹	岩手県	0.48	0.4	0.48	0.51	0.46	→	☆
	全国	0.64	0.58	0.61	0.58	0.6		
ヘルパンギーナ	岩手県	0	0.03	0	0.03	0.13	→	☆
	全国	0.05	0.08	0.14	0.18	0.28		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.43	0.23	0.13	0.46	0.1	↘	☆
	全国	0.2	0.18	0.15	0.19	0.18		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02		
流行性角結膜炎	岩手県	0.93	0.79	1.57	0.64	0.64	→	☆
	全国	1.17	1.1	0.94	1.09	1.03		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0.05	0	0.05	0	→	
	全国	0.03	0.01	0.02	0.03	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0.05	→	
	全国	0.02	0.03	0.03	0.02	0.03		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.05	0.05	0.05	0	0.47	↗	☆
	全国	0.14	0.18	0.14	0.14	0.17		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0	0	0	0		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.37	0.26	0.11	0.37	0	↘	
	全国	0.29	0.28	0.21	0.22	0.1		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	1	0	0	0	0		
	全国	43	45	24	26	11		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		19	20	21	22	23		23	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	3 (0)	4 (1)	2 (1)	1 (1)	6 (1)	82 (36)	334	9064
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	9	87
	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	0	0	1	7	101	664
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	18
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	10
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	4	172
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	22	388
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	1	5
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	3
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	2	31
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	つつが虫病	1	0	0	0	0	1	3	79
	デング熱	0	0	0	0	0	0	2	56
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	5	60
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	2	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	18	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	1	
レジオネラ症	0	0	0	0	0	2	45	576	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	1	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 19	20	21	22	23	累計	23	累計
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	1	0	0	0	7	12	355
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	4	87
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	1	0	3	28	716
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	1	8
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	2	7	344
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	8
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	0	0	0	2	3	92
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	1	1	0	4	8	356
	後天性免疫不全症候群	0	0	1	0	0	2	15	536
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	2	34
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	0	0	0	0	1	5	220
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	18
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	0	0	0	0	9	44	1852
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	1	6	179
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	2	0	0	12	95	2752
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	5	79
	破傷風	0	0	0	0	0	0	2	41
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	23
百日咳	1	1	1	0	1	17	139	2104	
風しん	0	0	0	0	0	0	1	35	
麻しん	0	0	0	0	0	0	3	173	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	8	

今注目の感染症

麻しん (はしか)

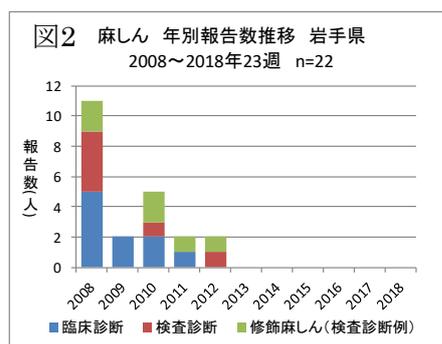
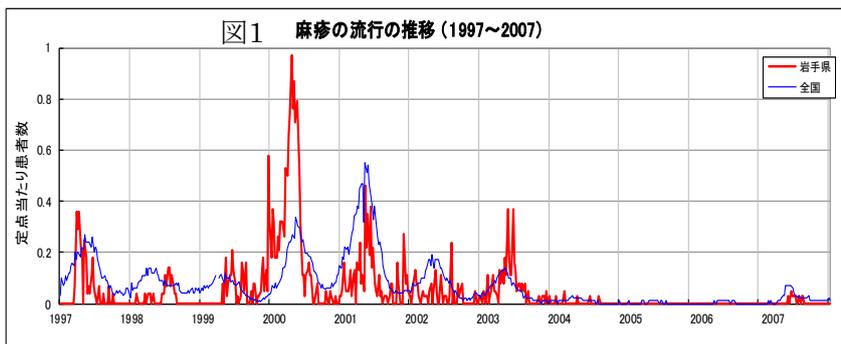
麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。感染経路は空気感染、飛沫感染、接触感染で、感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。典型的な症状は、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪の症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。また麻疹ウイルスは一時的に宿主の免疫機能を抑制し、約3割の患者が合併症を併発し、肺炎や脳炎を合併した場合には死亡することもあります。

麻しんは、2008年から全数が届出されています。岩手県では2012年第11週まで22例届出されており、2012年第12週以降届出はありません(図2)。全国では、2008年に10～20歳を中心にした流行があり11,013例の報告がありましたが、2009年以降は35例～732例で推移しています。2018年5月28日現在、沖縄県で海外からの輸入例により99名の患者発生事例が報告されています。

麻しんの予防にはワクチン接種が最も有効です。定期予防接種は、1歳児と小学校入学前1年間の幼児の2回です。自分が感染しないためだけでなく周りの人に感染を広げないために予防接種を受けましょう。

参考 国立感染症研究所 麻しん
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

厚生労働省 麻しんについて
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html



今注目の感染症（つづき）

つつが虫病

つつが虫病は、ツツガムシ病リケッチアに感染したツツガムシ（ダニの一種）の幼虫の刺咬により、病原体が体内に侵入しておこる感染症です（図1）。

潜伏期間は5日から15日間で、症状は、発熱、発疹、頭痛が主症状で、皮膚には特徴的なダニの刺し口がみられます（表1）。つつが虫病は、治療が遅れることで重症となることがあるため、野外活動の後、疑わしい症状が出た場合には、早めに医療機関を受診し、適切な治療を受けましょう。野外で活動したこと、ダニに刺されたかもしれないことなどを医師に伝えることも大切です。

岩手県内での発生状況ですが、全県内に毎年発生し、春から夏と、秋から冬にかけての2つの発生のピークがみられます（図2）。ツツガムシの生息しているような場所（野山や田畑、河川敷等）にはなるべく立ち入らないようにし、立ち入る場合には、長袖、長ズボンに足首を覆うことができる靴を履くなど、肌の露出の少ない、ダニの吸着を防ぐような服装をして、虫除け剤を適宜使用しましょう。野外での活動後は、上着や作業着を屋内に持ち込まないようにしましょう。また、ダニが衣類の隙間から入り込むことがあるので、帰宅後は速やかに入浴やシャワーなどで洗い流し、ダニがついていないか確認することも大切です。

参考 国立感染症研究所：ツツガムシ病とは
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>
 国立感染症研究所：リケッチアって知ってますか？
<http://www0.nih.go.jp/niid/Rickettsia/>

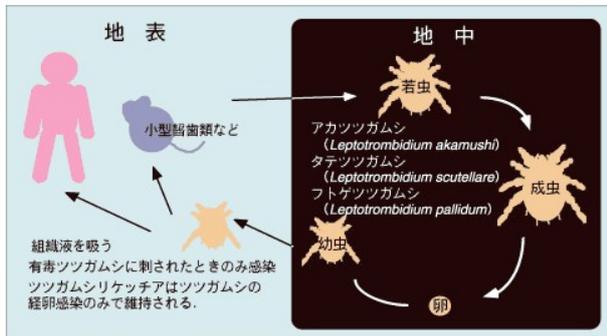


図1. ツツガムシの生活環
 ー国立感染症研究所HPよりー

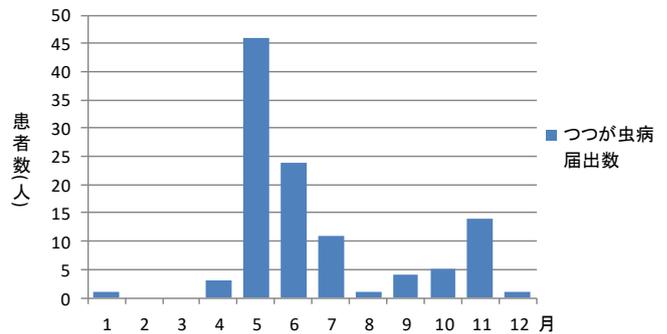


図2. 岩手県における月別つつが虫病届出数 (1999-2018年累計)

表1 ダニを媒介して起こる代表的な感染症

疾患名	媒介するダニ	病原体	症状	潜伏期間	発生状況 (2018年第19週)	
					全国	岩手県
重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	マダニ (フタゲチマダニ、タカサゴキラマダニ、キチマダニ等)	SFTS virus (Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome virus)	発熱、消化器症状、頭痛、筋肉痛、リンパ節腫脹	6日～14日	17	0
つつが虫病	ツツガムシ (アカツツガムシ、タテツツガムシ、フトゲツツガムシ)	Orientia tsutsugamushi	発熱、発疹、全身倦怠感、頭痛、刺し口、食欲不振、悪寒、リンパ節腫脹	5日～15日	58	1
日本紅斑熱	マダニ (キチマダニ、フタゲチマダニ、ヤマトマダニ等)	Rickettsia japonica	頭痛、発熱、全身倦怠感、刺し口、発疹	2日～8日	29	0

今注目の感染症 (つづき)

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は細菌やウイルス、寄生虫など多種多様な原因によっておこる胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスが大部分を占めています。近年では、流行の前半ではノロウイルスが、後半ではロタウイルスが患者から多く検出されています。

感染性胃腸炎の報告数は、例年12月頃にピークを迎えますが、2017年の12月は比較的報告数が少ない状況で推移しました。2018年第23週の定点あたり患者数は前週より減少し、4.56人となりました。集団感染事例は2017年10月からこれまでに保育所等から46例報告されています。このうち42例がノロウイルス、残りの4例がサポウイルスを原因としたものでした。県環境保健研究センターが実施した検査では、ノロウイルスによる集団感染事例の原因となった遺伝子型は、2016年12月から2017年4月まではGII.2が主に検出されましたが、それ以降はGII.4が多く検出されています。

感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスは、感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染するので注意が必要です。保育所や老人福祉施設など、集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が勧められます。予防には、調理前や食事前、トイレの後などに石けんと流水による十分な手洗いを行うこと、患者の吐物や便を処理する際は、使い捨ての手袋やマスクを着用し、塩素系薬剤を使用すること、食品を十分に加熱することが重要です。

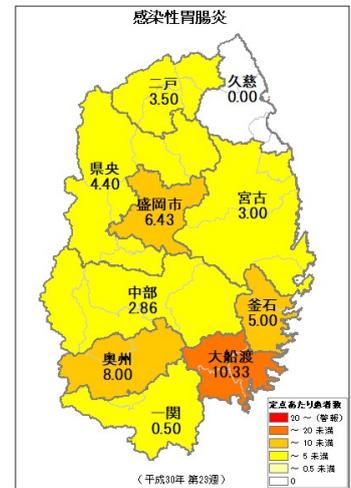
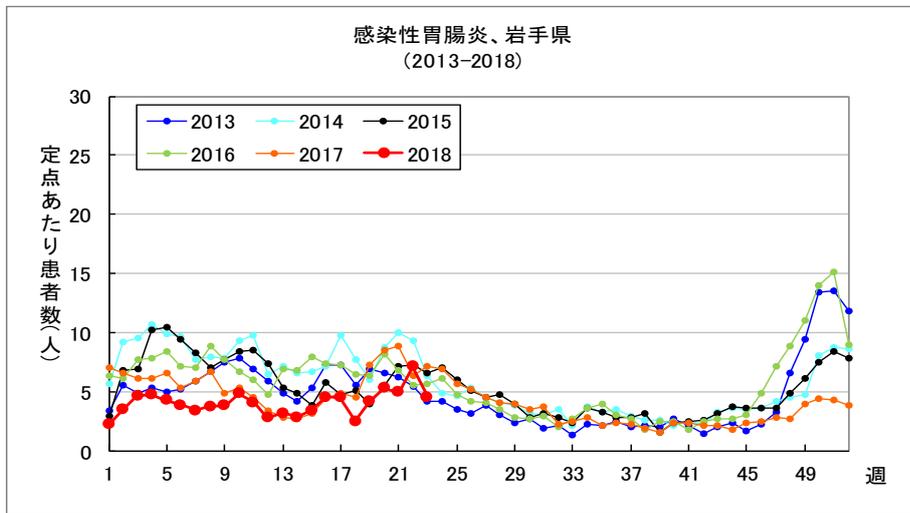
参考

国立感染症研究所 感染性胃腸炎とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/383-intestinal-intro.html>

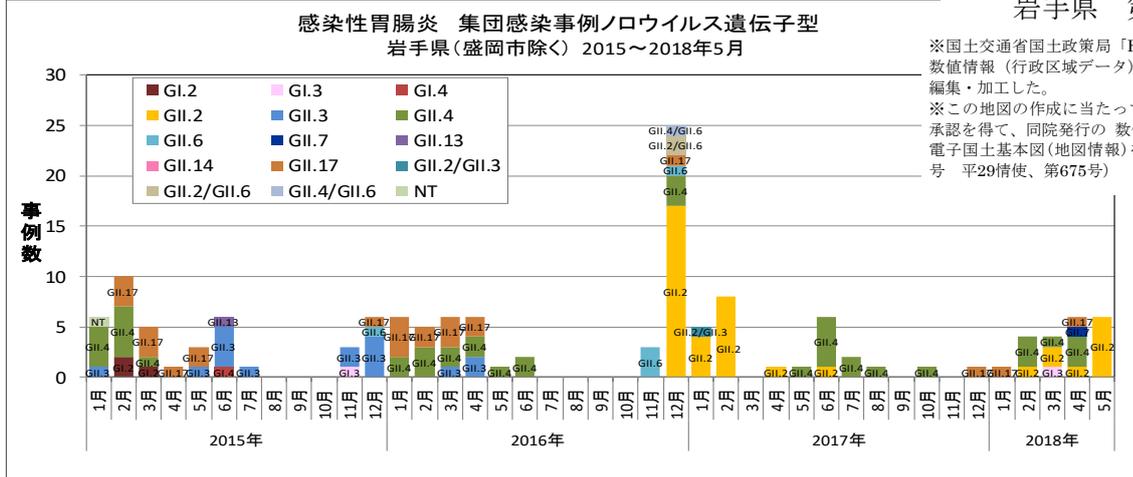
厚生労働省 ノロウイルスに関するQ&A

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html



岩手県 第23週

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土地数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)



病原体検出情報

- ・下気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、RSウイルスを1件、ライノウイルスを2件、アデノウイルス1型を1件、それぞれ検出しました。
- ・伝染性紅斑の患者の咽頭ぬぐい液から、パルボウイルス（B19）を2件検出しました。
- ・手足口病の患者の咽頭ぬぐい液から、ライノウイルスを1件検出しました。
- ・リンパ節炎の患者の咽頭ぬぐい液から、ライノウイルスを1件検出しました。
- ・不明熱の患者の咽頭ぬぐい液から、ヒトヘルペスウイルス6型を2件、ライノウイルスを3件、アデノウイルス5型を1件、ヒトメタニューモウイルスを1件、それぞれ検出しました。
- ・不明発疹症の患者の咽頭ぬぐい液から、ヒトメタニューモウイルスを1件、ヒトヘルペスウイルス6型を1件、それぞれ検出しました。
- ・感染性胃腸炎の患者の糞便から、A群ロタウイルスを1件検出しました。

集団感染情報

○感染性胃腸炎の集団発生について

盛岡市内の認定こども園（園児119名、職員40名）

- ・5月30日（木）から6月6日（水）までに、園児17名、職員1名に症状（嘔吐、下痢、発熱、腹痛等）
- ・有症者5名からノロウイルスを検出

陸前高田市内の小学校（園児120名、職員18名）

- ・5月30日（水）から6月7日（木）までに、児童11名に症状（嘔吐、下痢等）
- ・有症者3名からノロウイルスを検出

花巻市内の小学校（児童122名、職員18名）

- ・5月21日（月）から6月7日（木）までに、児童18名に症状（嘔吐、下痢等）
- ・有症者5名からノロウイルスを検出

盛岡市内の認定こども園（園児179名、職員50名）

- ・5月21日（月）から6月12日（火）までに、園児28名、職員1名に症状（嘔吐、下痢、発熱等）
- ・有症者6名からノロウイルスを検出

矢巾町内の保育所（園児166名、職員49名）

- ・6月1日（金）から6月12日（火）までに、園児20名、職員4名に症状（嘔吐、下痢等）
- ・有症者5名からノロウイルスを検出

医療機関からの情報

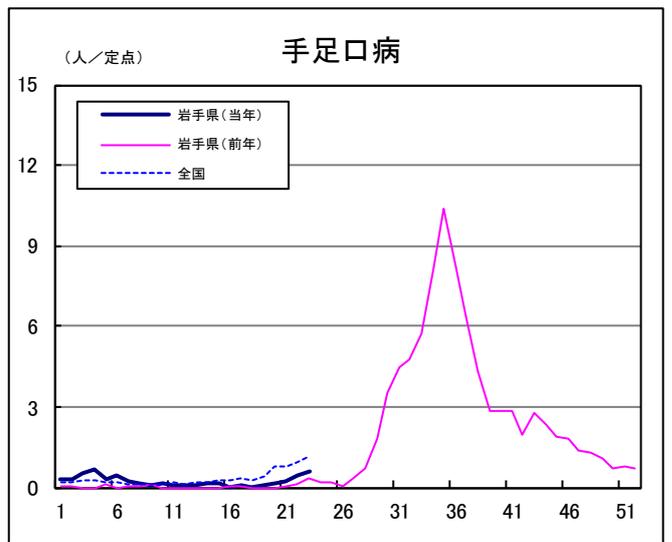
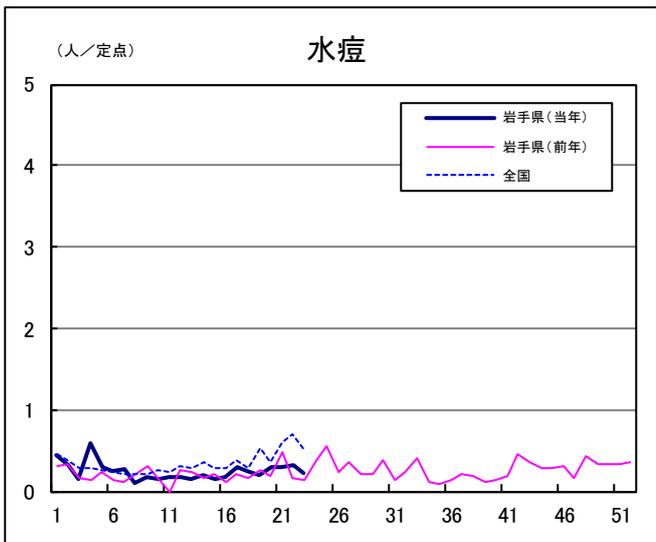
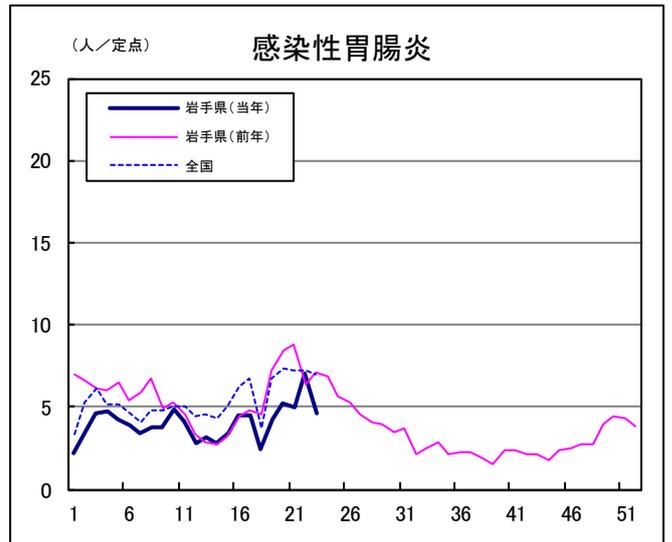
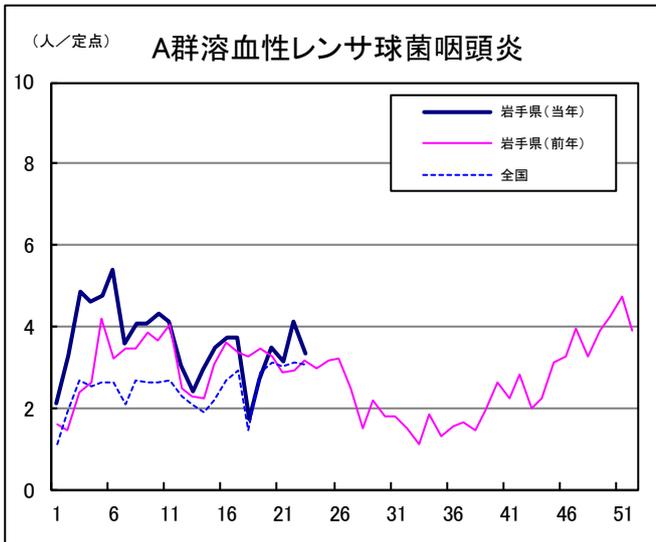
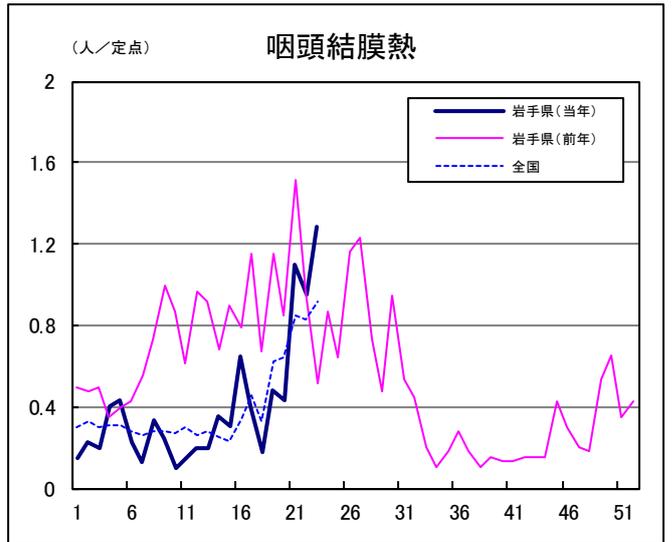
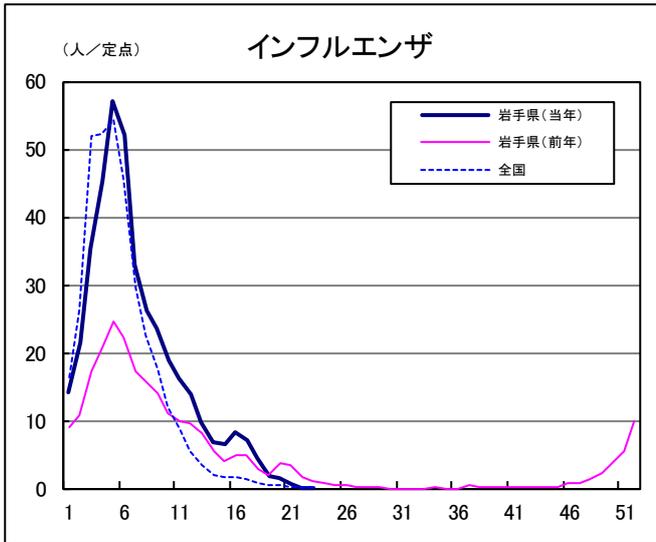
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

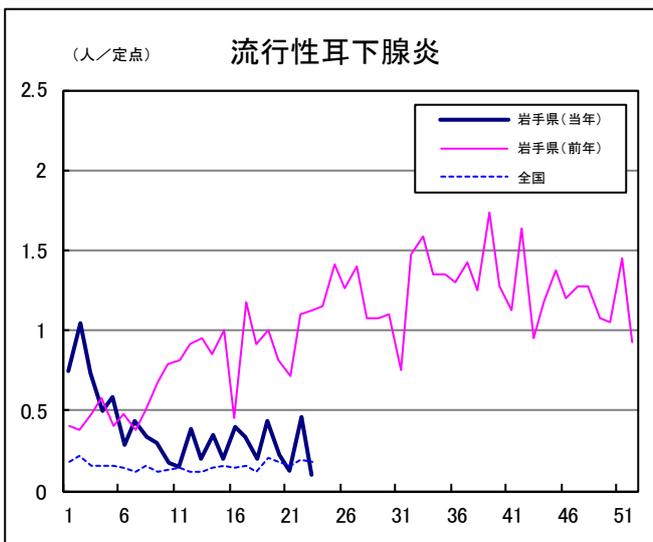
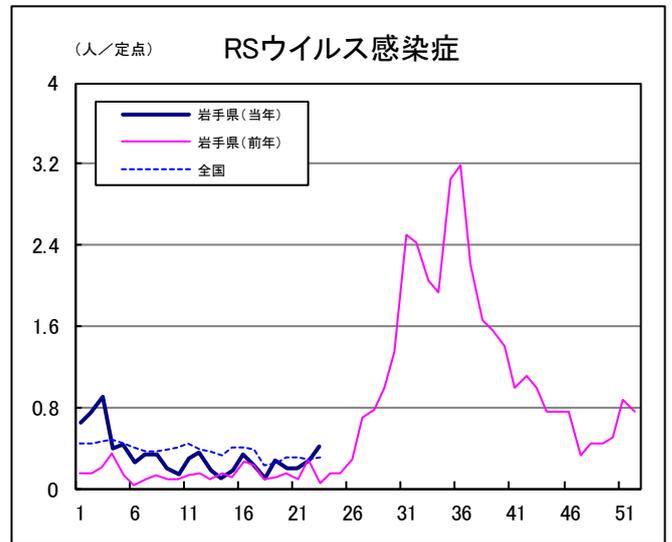
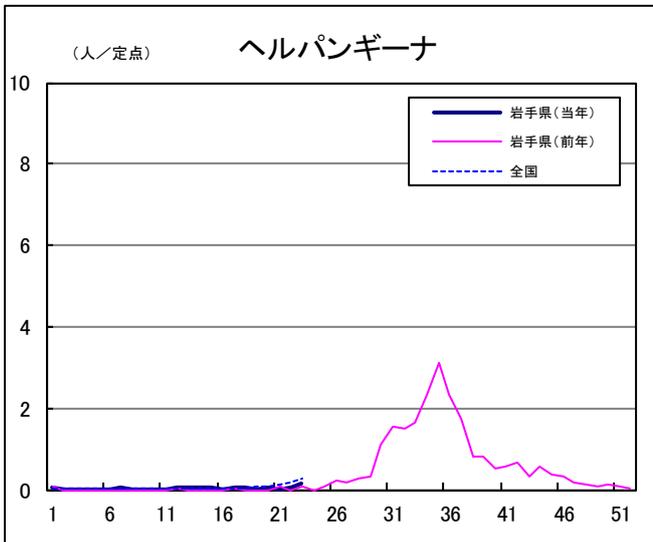
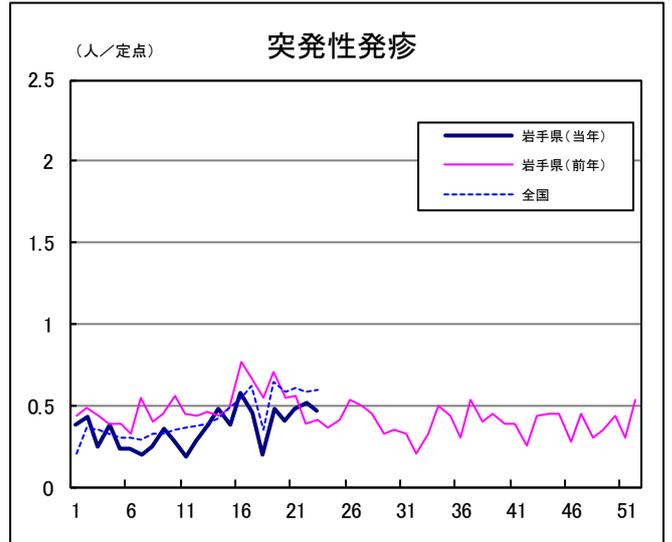
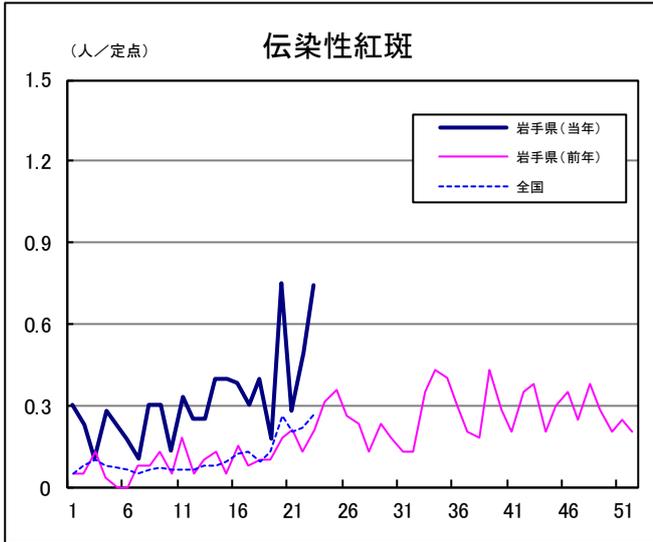
Q & A

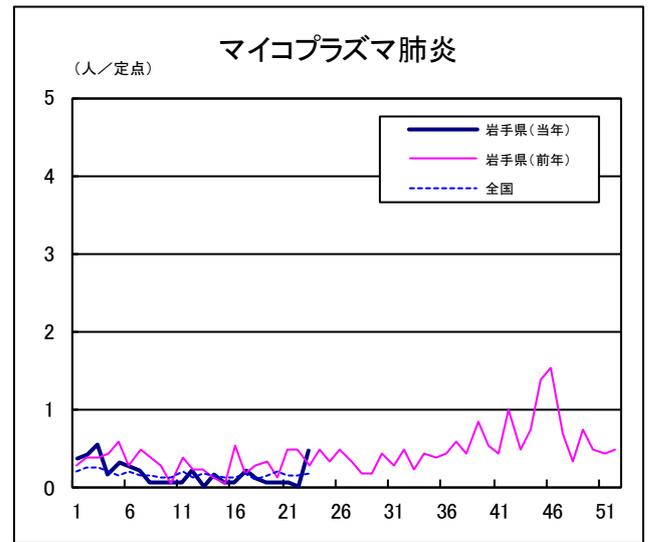
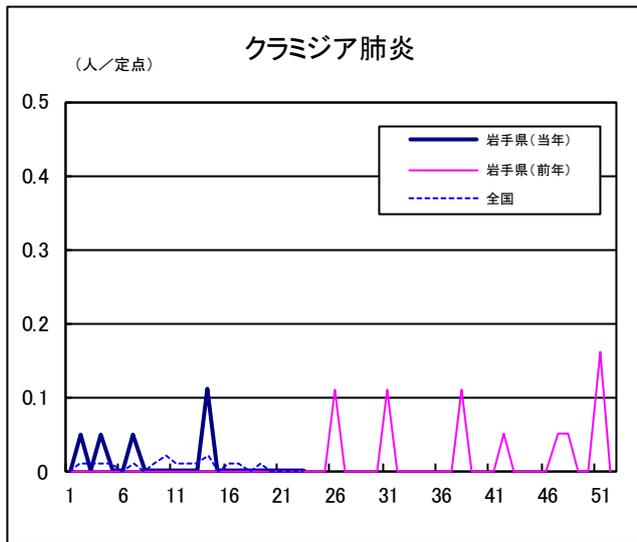
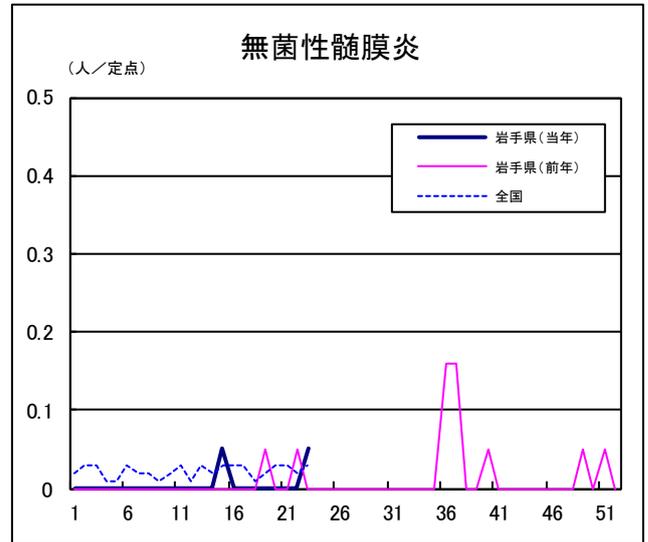
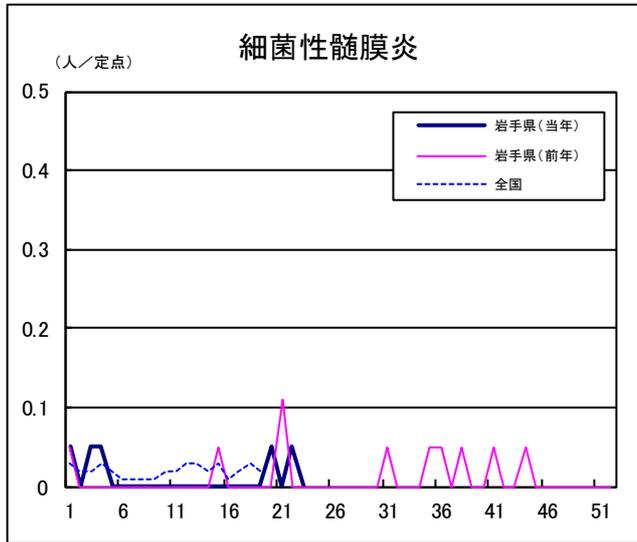
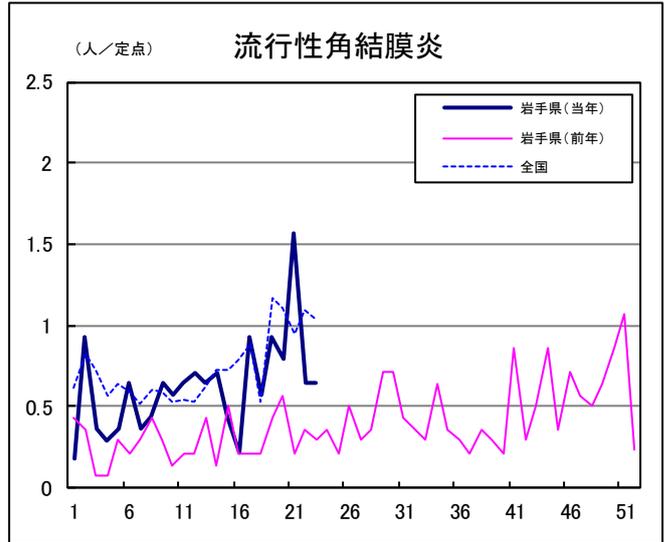
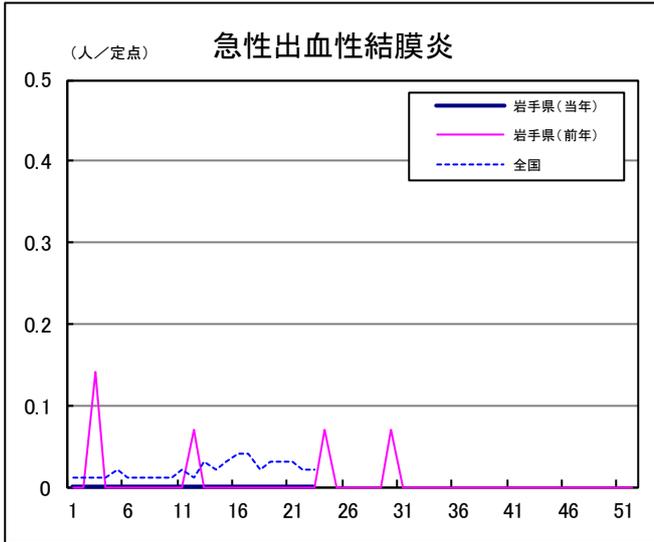
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県		64	39	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		5	3	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成30年第23週 平成30年6月15日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>